

トルコギキョウの産地化を目指して！

いわき農林事務所農業振興普及部

1 背景・ねらい

<背景>

- ・H27年にいわき市南部に直売所が新設された。
 - トルコギキョウが人気になり、栽培希望者が増加していた。
 - しかし、独学で栽培したものが多く品質はバラバラだった。
 - 当時の普及活動は個別巡回で支援していた。
- ・JAとしても直売所の集客のため、良質の花を欲しがっていた。
トルコギキョウがよく売れるので、管外からも良質なものが入荷されてきた。
 - 品質が揃っていないものは売れ残るようになってきていた。



- 個別巡回の中で、生産者が同じ疑問や不安を持っていることが判明。
- 市場にも出荷できる品質の花を作りたいという複数の要望。

<ねらい>

- ・生産者同士の交流の場をつくる
- ・生産者の栽培技術を向上させる
- ・市場出荷を目指す



トルコギキョウの産地づくり

2 活動内容

(1) 組織化に向けた取組

- R2年12月～R3年8月までワークショップを開催(全6回)
 - ベテラン農家のほ場を借りて実際に作業を体験。
- 実際に自身のほ場で栽培してもらって、個別巡回しながら指導。
 - 今後の方向性などを個別に聞き取りも行い、団体設立を誘導。



写真1 ワークショップ

後に「勿来ユーストマ研究会」が設立！

(2) 研究会の活動支援

- 月1回の定期指導会を開催。ほ場での実践を踏まえながら指導。
指導会にはJA・市に参加を依頼。
- 市場関係者を招いた勉強会を開催。
- 先進地視察を実施。
- 市内の農業法人に育苗の協力を依頼。
- いわき地方フラワーネットワークとして、生花店、流通組織、関係団体との交流を開始。
- 生産者毎の個別カルテを作成し、経営を分析。



写真2 市場関係者を招いた勉強会



写真3 先進地視察

3 活動の成果

(1) 組織化に向けた取組

- 市場出荷を目標に、栽培技術向上、新規栽培者の確保・育成、情報交換等を行う

「勿来ユーストマ研究会」がR4.2月に設立。

(2) 研究会の活動支援

- 市・JAと連携し、研究会を支援する体制を整備。
→市は補助事業により、パイプハウス2棟新設する等を支援。
JAは定植前に土壌分析などを実施。
- 新規栽培者が2名増加(R3:6名→R5:8名)。
R6年度も1名増える見込み。(図1)
- 栽培面積、総出荷量、市場出荷量も増加。(図2)
- 市場出荷の内、80cm規格の出荷量が増え、品質も向上。(図3)
→花屋さんの口コミで市場評価が向上。
- 市内の農業法人に直接育苗を依頼することで比較的安価に苗を購入。
- 新技術に取り組む人が増加(延べ3人)。
作型分散を考えるようになった。
- 研究会で独自に実証ほを設置し、栽培意欲が向上。

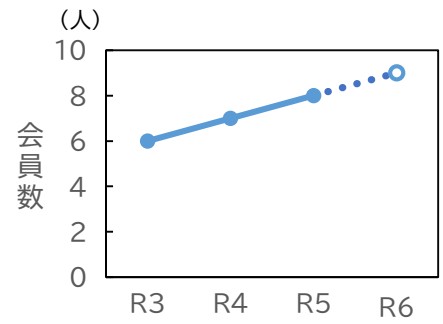


図1 研究会員数の推移

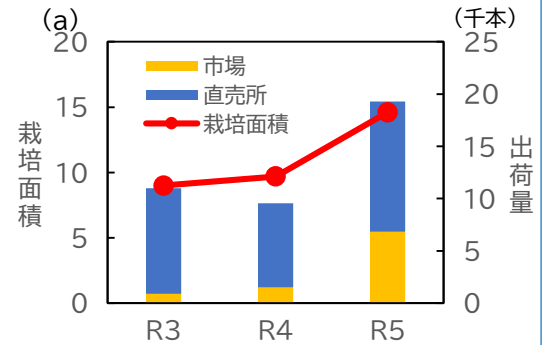


図2 栽培面積・販売先別出荷量

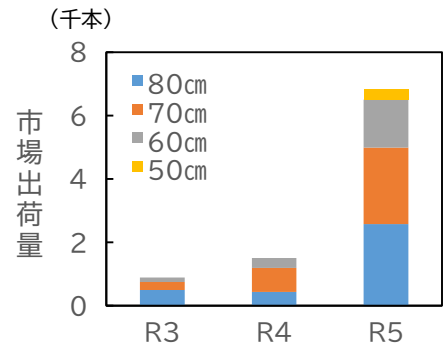


図3 規格別市場出荷量

4 今後の活動・方向性

<継続の課題>

- 市場評価が高く、出荷要望が高まっているが、要望に応えられる量は出荷できていない。
- 生産技術は向上したが、現在も生産者間の技術力の差が大きく、品質にばらつきがある。

<新たな課題>

- 新規栽培者が増えてきたことで、研究会内で栽培に対する熱意の差が生まれてきた。

<今後の活動>

- JAの直売所出荷者向けの勉強会等で、新規栽培者の掘り起こし。
- 既存生産者への技術向上支援、市場出荷への誘導を継続。
→栽培面積、収量の増加を図りつつ、品質を上げ収益向上を狙う。
- 研究会員の意向調査を実施し、研究会員が共通の目標に向かって取り組めるように誘導。

魅力UP!
団結力UP!



目指せ！トルコギキョウの産地化！